

6月議会報告その 3

少人数学級の教育効果と学級の適正規模について

今年の4月から、岐阜県もようやく「35人学級」がスタートし、少人数学級に一步踏み出しました。ところが市内の小学校には「40人学級」や「38人学級」がありました。日新小学校の新1年生のクラスは「40人学級」で、1年生のお母さんは「今年こそは少人数学級で子どもたちにゆきとどいた教育が保証できる」と期待していたのですが・・・この問題について一般質問で取り上げました。

市会議員 笹田トヨ子

笹田トヨ子（質問要旨）

岐阜県は1学年で1クラスしかない場合は、クラス的人数が40人であってもそのままとすること、なぜ20人以下の学級をつくらぬのですか。

教育長（答弁要旨）

子ども達が切磋琢磨できるための集団としては20人以上の集団がよいと考える。

「人数が多い方が切磋琢磨できる」というが・・・

20人・30人学級の欧米の子ども達が切磋琢磨できなくて困っているということはありません。また、日本の過疎地域の少人数学校は子ども達が生き生きと育つ場として注目されています。学校教育での切磋琢磨は、ひとり一人の子どもが額六を身につけ、人間的な面での成長するのが目的でその目的にかなった学級規模にすることが大切です。

人数学級の教育効果は・・・

少人数学級の教育効果は世界でも日本でも認められている。アメリカの研究で有名な「グラス・スミス曲線」がありますが、これは、学級規模が小さくなるに従って「学習の到達度」、「情緒の安定」、「教員の満足度」が高くなるという調査結果です。（図参照）

日本教育学会の「学校・学級の編成に関する研究委員会」の調査研究では、「学級規模25人を境に教育効果は大きく変化する。学級定員の標準は20人程度とすべきだ」という結論を出しています。

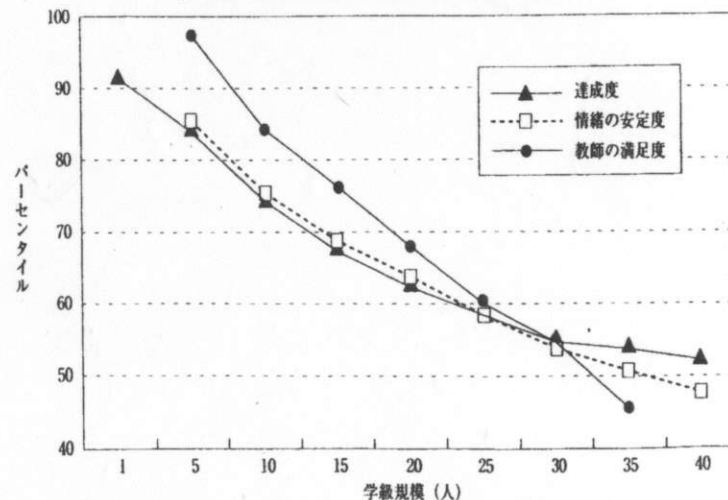
教科書選定過程は非公開

今年8月までに教科書の選定が行われますが、去る6月29日、西濃教育オンブズマン等4団体で、西濃教育振興事務所及び大垣市教育委員会に対し、扶桑社の歴史及び公民教科書を採択しないよう要請しました。その中で明

来年度予算要求で 小学校2年生まで少人数学 級の実現を！

今年度は40人学級が存続していますが、来年度こそ小学校2年生まで「35人学級」を実現させ、子ども達にいきとどいた教育保障ができるよう、平成18年度予算要求の中で要求していきます。

図1 グラス・スミス曲線〔アメリカのクラスサイズ研究〕
(学級規模と達成度、情意面、教師の満足度)



らかになったことは、「静謐な環境が必要」という理由で、その選考過程は全く開示されないと言うことです。各委員会、協議会の日程および検討材料もすべて秘密にされており、選考過程の適正が住民に知らされないのは問題です